

みんなが住みやすい日本へ

筑紫野南中学校二年

稲富 恵衣

一年程前の話です。母が母の妹に電話で

「じゃあ、やつぱり、病院に連れて行こう。」

と言っていました。電話のあと、母に、

「何の話。」

と聞くと

「おばあちゃん、この頃、物忘れが多いし、本人もそのことを気にしているから、もの忘れ外来に連れて行く相談してた。」と言いました。

しかし、病院に予約の電話をすると、なんと三ヶ月待ちとのことで、母達はとても驚いていました。それから、三ヶ月が経ち、母や母の妹が祖母を病院に連れて行き、いろいろな検査をしてもらいました。

認知症の一番多い原因である脳萎縮は無かったけれど、脳の血流が悪いところがあり、それが原因で軽い認知症になっていると診断を受けました。

祖父母はお店を経営していますが、以前の祖母はお客さんの顔と名前、それに電話番号まで覚えていて、お金の計算も非常に早かったのに、今は自信がなくなっただのか、お客さんの相手はあまりしなくなり、以前よりも少し笑顔が減ったように感じます。

祖母は認知症の薬を少ない量から飲みはじめることになりました。ただ、薬を飲みはじめ、認知症の進行が遅くなるとわかってからは、安心したのか、少し表情が明るくなりました。毎回ゆっくりと説明をしてくれる病院の先生が祖母の心の支えになってくれているようです。しかし、病院の先生は、

「こうやって、病院を探して受診のたびに連れてきてくれる人がいることのほうが、認知症の方々の支えになっているんですよ。」

と、母に言ったそうです。認知症になっても、そのことに気づいてくれる家族がいなかったり、病院に連れていってくれる人がいなかったりする高齢者が多いとのことでした。

私の兄は、進行性の筋ジストロフィーです。体全体の筋肉が少しずつなくなっていく病気です。小学五年生の時から、自分の足で歩くことが難しくなったので、今は車いすに乗って生活をしています。兄は、学校に行くときも、お風呂に入るときも、学校で移動するときも、家族やヘルパーさん、先生、友達などいろいろな人が協力してくれるおかげで、生活ができています。もし、兄に家族や友達などの協力がなかったら、一人で生活していけるでしょうか。私は、とても難しいのではないかと思います。確かに、スロープやエレベーター、点字ブロック、手すりなどが、きちんと設置されていれば障がいをもっている人がより快適に生活することができると思います。しかし、それだけでは、たった一人で生活していくことはできません。スロープの上に物が置かれていたり、エレベーターに階段を使え

る人がたくさん乗っていたり、点字ブロックの上に自転車をおきっぱなしにしたりする人がいると、いろいろな便利なものがあっても生活しづらいままだと思います。

高齢者も同じです。どんなに施設が整っていても、いろいろな道具を使っても、周囲の人達の気持ちや心がけで生活がしづらいか、しやすいかが、ずいぶん変わってくると思います。高齢者は動作がゆっくりで周りの状況の変化についていきにくくなったり、認知症でなくとも物忘れをしたりと若いときは普通に出ていたことができなくなったりします。でも、そうなくても家族や周りの人達が、ほんの少しでも手助けをすれば今までより、高齢者は生活しやすくなるはずですよ。

先日、認知症の人が徘徊しても無事に保護できるネットワークの訓練がニュースで流れました。私はそれを見て、日本中どこでもこのような取り組みが行われたらいいなと思いました。

いずれは、今、中学生の私も高齢者になります。その時には住みやすい日本であってほしいと思います。健康な人達の少しの手助けがあれば、病気や障がいを持っていることで外出を控えたりしている人、困っている高齢者が減っていくでしょう。

健康であっても、障がいがあっても、高齢になっても、だれもが安全に安心に過ごせる世の中になったらいいなと思います。私はそんな世の中にするために、いつも、自分のことだけでなく、いろいろな人のことを考えて行動していこうと思います。